



兵舎踏切 (つがる市木造)

こんにちは。歴史資料室の村上です。

先日、今尾恵介『ゆかいな珍名踏切』(2020年 朝日新聞出版社)という本を読みました。この本は「パーマ踏切」や「洗濯場踏切」など全国各地にある珍しい名称の踏切を訪ね、その名称の由来を紐解いていくという内容で、五能線の兵舎踏切(つがる市木造)など青森県内の踏切も取り上げられています。

この本によれば、踏切の名称には基本的に地名や街道名が採用されていますが、踏切の近くにある学校や商店などの施設名が採用されることもあります。また、地名や施設名が変更されたり、なくなったりした場合でも踏切の名称が変更されず、中には「戦前の呼び名から変わっていない事例」もみられるそうです。今尾氏はそのような踏切を「記念碑的踏切」と呼んでいます。

この本には取り上げられていませんが、青森市内にも「記念碑的踏切」と呼ぶことのできる踏切がいくつかあります。その一つは県営浅虫水族館近くにある「浅虫中学校踏切」です。浅虫中学校は平成27年(2015)に閉校しましたが、その校舎があった場所は久栗坂地区で、踏切がある場所からは離れています。



浅虫中学校踏切

では、なぜ「浅虫中学校踏切」という名称なのでしょう。

それは浅虫水族館のある場所に、かつて浅虫中学校の校舎があったからです。校舎があった場所は「坂本ヶ丘」と呼ばれ、当時の校歌にも「望洋はてなし坂本ヶ丘」と歌われていました。かつては多くの生徒が「浅虫中学校踏切」を利用していたのでしょ

浅虫中学校は浅虫水族館の建設に伴い、昭和 57 年に久栗坂地区の新校舎へ移転しました。昭和 58 年には新しい校歌も制定され、歌詞から「坂本ヶ丘」という言葉が消えました。しかし、踏切の名称は変更されず、この地に浅虫中学校があったことを伝えています。



浅虫水族館

同じような事例として、油川中学校の近くに「飛行場道路踏切」があります。「飛行場」とは「あおり歴史トリビア」第 73・74 号などでご紹介した青森飛行場のことです。飛行場はなくなり、多くの遺構も失われましたが、踏切の名称にしっかりと名残をとどめているのです。



飛行場道路踏切

※今回の内容は『浅虫中学校創立 50 周年記念誌 みちのり』(2002 年)などを参考にしました。なお、今尾恵介『ゆかいな珍名踏切』は市民図書館 7 階の新書コーナーにあります。